

## イスラム金融 ——現代版「海のシルクロード」？——

福島康博\*

2008年9月のリーマン・ショックに象徴されるような金融危機に、日本やマレーシアを含めた世界各国が直面している。そんな中、マレーシアのイスラム金融の底堅さが目立っている。確かにIslamic Finance Information Service社の調査によると、マレーシア国内におけるスクーク(Sukuk、イスラム債)の新規発行高は、2007年の265.3億米ドルに対して2008年は58.6億米ドルで、実に4分の1以下にまで減少した。それでも、世界のスクーク市場におけるマレーシアのシェア率は引き続き世界第1位であり、また今年に入って以降、すでに回復基調に向かっているとみられている。

マレーシアのイスラム金融関係者に言わせれば、イスラム金融の強みは「実体経済に強く結びついた仕組み」にあるという。イスラムの聖典コーランには、第2章275節に「神は商売を許し、利子をとるのを禁じたもうた」との記述がある。ここからイスラム金融は、カネがカネを産むような銀行利子を否定し、代わりにムダーラバ(Mudharabah)やムラーバハ(Murabahah)といった、近代以前のアラブ世界で実践された実物取引を介在させる契約形態を中心にすえた。そのため、今回の金融危機の引き金を引いたサブプライム・ローンのような負債を証券化した金融商品は、単に権利を売買するだけで実物を伴ってないとして、イスラム金融では取引が禁じ

られている。だから、「イスラム金融は金融危機からの直接的な影響が小さくてすんだ」というわけだ。

本格的な最初のイスラム銀行は、1975年のドバイで設立された。これは、1973年の石油危機によるオイル・マネーを背景としており、この時期はドバイをはじめ湾岸産油各国でイスラム金融機関が設立された。こうした動きは、1980年代に入るとアラビア半島から東の方向に伝わり、イランではホメイニー政権下の1982年から、パキスタンではジヤ=ウル=ハク政権下の1983年からイスラム銀行制度がそれぞれスタートした。いずれも、イスラム化政策を強行に推し進めることによってイスラム復興をはたそうとする政権がイスラム銀行の設立を担った、という共通の特徴を見て取ることができよう。

イスラム金融設立の機運は、イスラム復興とともに東南アジア島嶼部のマレーシアにも到達した。マハティール政権は、イスラム化政策の一環として1983年にイスラム銀行業法を施行、最初のイスラム銀行であるバンク・イスラム(Bank Islam Malaysia Berhad)が設立された。その後10年間は、イスラム銀行市場はバンク・イスラムの独占状態であったが、1993年に導入された「イスラム銀行スキーム」(Skim Perbankan Islam)は、従来型の有利子銀行がイスラム窓口(Islamic Windows)と呼ばれるイスラム銀行業

\*東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 産学官連携研究員

専門の窓口の設置を可能にしたため、これによってイスラム銀行市場が競争状態になった。

1997年の通貨危機を経て金融機関の再編がすすむ中、1999年には第2のイスラム銀行業専門銀行であるバンク・ムアーマラート(Bank Muamalat Malaysia Berhad)が創業した。さらに2001年に中央銀行が策定した『金融部門マスタープラン』では、イスラム金融市場とイスラム式の保険であるタカフル保険(Takaful)市場の改革が謳われ、その後これに沿って、会計制度の整備、スクークやイスラム投資信託(Islamic Unit Trust)といった新しい金融商品の開発と市場の開設、イスラム銀行業法の改正等が行われた。

また、この4月に発足したナジブ新政権においては、イスラム金融市場を外資の金融機関に開放する方針を示している。中央銀行によると、年内に外国の2つのイスラム銀行とタカフル保険会社に対して、新規に内国業務のライセンスを発給するとともに、既存の国内イスラム銀行・タカフル保険会社への外資出資比率の制限を緩和する、というものだ。ナジブ首相は、ブミプトラ政策の緩和を目指しており、新たなイスラム金融政策を発表する前にも、コンピュータ産業、観光業、福祉・レジャー産業など27業種によるブミプトラ出資比率枠の撤廃を表明している。イスラム金融新政策も、こうした流れに位置づけられよう。

このように、四半世紀にわたって政府・中央銀行主導の下、断続的な制度改革と市場開放政策を通じてイスラム金融の発展に努めてきたマレーシアは、いまや中東のバハレーンと並び、東南アジアにおけるイスラム金融のハブとしての

地位を築いたといえよう。

そして、マレーシアで培われてきたノウハウは、同じ東南アジアのシンガポール、インドネシア、ブルネイ、さらには非イスラム国の香港まで波及しつつある。東アジアの金融の拠点のひとつである香港で、2007年に初めてのイスラム銀行設立を手がけたのは、マレーシアのホンリョン銀行であった。

こうしてイスラム金融の普及の歴史を振り返ってみると、それはあたかも、かつてアラビア半島がインド洋やマラッカ海峡を通じて中国南部と繋がった「海のシルクロード」のルートをたどっているかのようだ。そうした意味では、イスラム金融は現代版「海のシルクロード」によって各国にもたらされているといえよう。もちろん、イスラム金融はダウ船で運ばれたわけではないが、かつての交易海路は、現代社会においてもなお一定の意味を持ちえているのかもしれない。

ここ数年、日本でもイスラム金融に関心がもたれている。オイル・マネーという巨大資金を獲得するためには、そのチャンネルであるイスラム金融と、基盤となっているイスラムへの理解が必須である。はたして、現代版「海のシルクロード」は、日本にイスラムの教えとイスラム金融、そしてオイル・マネーをもたらすのであろうか。